

遂に町議も擧る

職業賭博の擴大

賭博禍の小名濱續々檢舉

今次暴力團狩りで發覺した小名濱地方を中心に遠く茨城方面にまで觸手を伸ばしてゐた職業賭博團の一味は平署が各署に手配すると同時に菊地部長刑事係りで檢舉陣を擴大、取調べ中であるが既に二十三名の檢舉を見て恐惶の小名濱町から又復大者が擧げられた、右は同町々議村上清代(二)で村上は既報の如き同町博徒の大親分鷹鳥こと若松惣吉(五)等の職業賭博團の賭場に手を出して常習的に行つて行つたものである

ダニ四名送檢

ダニ狩りに檢舉した者のうち左記四名は取調べ終了、本二十六日送檢された

△江名畔田義雄 住宅侵入、罪喝△鈴木徳次郎(八)詐欺、横領、外二名

十一月行事

平第二校打合 校は今二十六日午後一時から會議室に各學年主任會を開き十一月の行事、体育週間其他に關し種々協議した

不貞のつま何處?

夫は傷心の未死亡

近親者から涙の捜査願 扶助料を受取れと嘆願

樺太敷香郡上敷香網場町飲食店小山松次郎(三)妻フミ子(五)は昨年十一月十五日夫の不在中、四才の男兒を連れて情夫同町佐藤義貞(三)と共に賣溜金全部を掻拂つて姿を晦まし傷心の松次郎は飲食店を止めて炭礦に働くうち落盤の爲め本年五月十五日遂に妻子の名を呼びながら死亡したので炭礦の扶助料の受取人がなく叔父の福田與四左衛門が妻フミの行方を捜査中とのこと情夫佐藤の原籍は入遠野

米穀自治管理 施行協議

平町で開催

縣經濟課主催の米穀自治管理施行に關する協議會は二十五日午後一時から平町團體事務所を開き、郡下各町

村長始め五石以上の販賣米を有する産業組合關係者が協議した

果樹組合總會

平窪村果樹組合定期總會は明二十七日午後一時から同倉庫内で開き併せて品評會を開催す

警女志村教諭

神奈川に榮轉 警女教諭志村一作氏は此程神奈川縣立工業學校に榮轉明後二十八日午後七時三十分で赴任する事になつたが同氏は去る四年五月着任以來科學及び園藝科を擔當今日迄七年六ヶ月間教鞭

重傷の夫の目前で 共稼中の妻落盤死

赤井村赤井字大平粘土採掘 業中島忠作(五)妻キク(三)の兩名は二十五日午後三時半頃粘土坑内で作業中岩石

崩盤のためキクは下敷きとなつて死亡忠作は全治十日間の重傷を負つた

南町街に強盗出現

スハ！と平署員緊張 ヒと親爺の飛んだ人騒せ

四倉町本町一一人事周旋業渡邊辰五郎(五)は二十五日夜十時頃平町南町料理店金澤屋こと金須徳次郎方へ登樓、同家酌婦佐藤千代子(二)のサーヴィスが氣に喰はぬと出した一圓の金を取返して呉れと願ひ出たので平署で取調べて見ると同人は悪性の梅毒を患つて居り年甲斐もなく登樓したこと

怪盗入る

貴金屬その他 内郷村大字白水字濱井場磐

明日のラジオ

廿七日

豊榮連
後六、〇〇 漫才「海の子」
後八、二〇 漫才「三遊亭川柳」
後八、四〇 漫才「那智者生子」
後九、〇〇 吹奏樂 聯合艦隊司令部付軍樂隊
後九、三〇 時報 ニューズ
明日の話題 氣象通報 番組通告

明日の部

城炭礦業所長菅原萬次郎氏宅へ廿二日夜から廿三日朝迄の間に賊忍び入りクロム時計並に貴金屬類十點外現金十六圓餘を窃取されたので平署で目下犯人捜査中

少年團式で 先生方が交歓

揮つた懇親會

既報辨當持寄りの懇親會一平町各小學校の先生が奇想天外より落つる態の型になり、竹の柱に草の屋根と云つた調子で夫々適當の場所を急造、辨當を開いて大いに交歓を重ね最後に全部の辨當ガラを纏めて火を放ち、是れ又少年團のジャンボリー式に焚火を圍んで隠し藝の披露に興を沸かし午後四時頃引揚げたと云ふ

阪國史劇研究会

後五、一〇 鹿の鳴聲實況
愛知縣額田郡宮崎村風頭山麓中繼
後六、〇〇 少年音樂講座「ハーモニカ」川口章吾
後六、二五 青年の時間
中等學校雄辯會合格者須賀井清介、高橋清、鈴木貞衛
後七、三〇 講演「世界を支配する大資本の系統」向井鹿松
後八、〇〇 歌謡曲と女聲合唱 生野靜子 藤堂顯一郎 大阪放送合唱團
後八、二五 俳諧 鈴木秀桃 土門信恵他
後八、五〇 舞臺劇「焚火」片岡我當他

平町人事

回出生
△正月町一谷川保太郎氏 四男利廣さん
△古鍛冶町二九矢島力雄氏 二女智恵子さん
△四丁目一八渡部大重氏 二女和加子さん
△鐵道官舎第一五ノ二關口 正義氏長男久夫さん
△八幡小路五八米本實氏長 女妙子さん
回婚 姻
△東京市世田ヶ谷區世田ヶ谷一丁目九四杉浦梅太郎氏(四九)久保町四二荒川柳さん(三九)
回死 亡
△堂の前四 淺野昭子さん(一ツ)
△立町八五 本村ミッさん(六一)

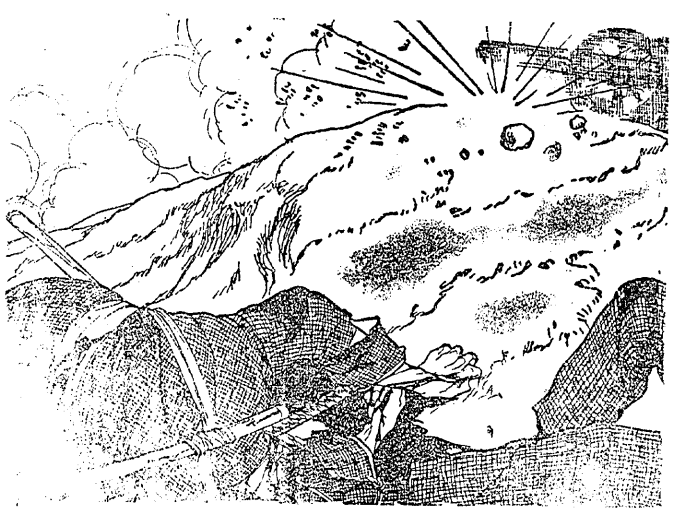
國旗 提灯

提灯



二五四 官軍の花形
瀧川充太郎は部下の兵と共に胸壁を飛びこえてむらがる敵に突き入り、先途と戦つた、土方歳三はこれを見て、それ瀧川を殺すな、救へ〜と叫んだ、こゝで壁を踰えて一團の兵がこれまた寄せ手に突き入つた、官軍はさつと兵を引きあげる、それを幕軍は十四五丁追つたが敵は大軍、こゝに一手の兵は背後にまはつた、前後から襲撃されては味方の不利とこゝで瀧川は兵をまとめて胸壁内へ引きとるとまた、官軍は攻めよせる、これからまた戦つたが二晝夜間断なく戦つた、銃身が熱し火を吹くかとおもはれる、そこで桶に水をくみ入れ、それにて筒を冷して射つたさうです。幕軍も強いが官軍も強いうちに官軍は到底こゝを乗取ることとは出来ぬと見て引きあげる、その時に官軍の軍目付が兵を損せぬやうにと馬を乗りまわして命令をつたへる、それは年若の武士であるが如何にもその舉動が悠々とした居る、雨のごとく注ぐ陣の中で少しも動せず命令をつたへる、

これを見て土方が「えらい奴だな、弾丸を何んとも思はぬぞ、心にくき程落つてゐるな、あれは武士の花だな」とほめてゐたが、弾丸が



馬に中つてバツタリ馬は倒れると彼の武士は馬よりおちた、それを見て幕軍が狙撃せむと銃を取り直すを土「待て〜射つな、立派な侍だ、助けろ〜あの人物を一人殺せばとて勝利を得るわけではないぞ、待て〜、射つな〜」と土方は制して土「俺の馬を貸してやれ、

この馬にてお引き上げなさいとつたへる、誰か馬をひゐて行け」そこで土方の部下の兵が小櫻と名づけた連銭芦毛の逸物を曳いてそれへ来たがもうこの時には兩軍とも一發の弾丸もおくらす暫時休戦

○「申し上げます、自分こゝとは土方歳三の部下の兵であります、あなたは乗馬にはなれてさぞ御困りなされるであらう、この馬は土方歳三の乗馬にございます、これがこれに召してお引き上げ

○「長州藩士駒井政五郎と申す者にござる、何れこの後の戦場にて土方殿に御禮を申すでござらう」と名刺をあてた、この馬に乗つて引きあげたが、その武者ぶりのいさまじきと、幕軍の人々はえらい人物だとその人をほめたさうです、その夜に至つて土方の貸與へた馬はもどつて来た、その時には酒を一駄背につけてゐた、これは駒井からおくられたもの、甚だ粗酒ではござるが一献さしあげるるとの書状が添へてある、土方は感心した。この

時の戦ひは官軍も幕軍もさぶる疲労した、さうでせう二晝夜の激戦、すると翌日の午後七時頃に官軍の軍艦五艘函館の港外に來て砲門をひらいた、港内に居つた幕軍の軍艦回天、蟠龍、千代田の三艦應戦したしたがその距離は十丁又は五丁まで接近した、官軍の軍艦は一時引きあげたがまにまた港外にあらはれた、こゝで幕軍の戦艦もこれが港外へ出でて戦ひ、敵艦を港内に引き入れんと打ちまけしごとく見せて港内に退く、それを官軍の戦艦は後を追ふて入る、かくと見て弁天島の砲臺から敵艦をのぞんで幕軍は弾丸をおくつた、これで多少の損害はあつた、たやうにおもはれる、官軍の戦艦は敵にはかかれたと知つて直に引つ返した、回天に蟠龍はこれを追るめて港外へ出たが浪が高くなつためにやがて引きあげました

その翌日またこゝで海戦があつたが約一時間あまりで兩方とも引きあげた。

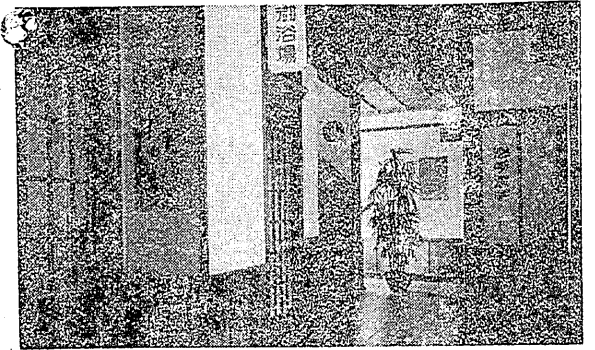
店主が店員	を連れて行	かれる	正シイ食堂	正シイ喫茶	正シイ酒場
平・田町	レストサロン	電話三五二番			

井坂醫院
平町 田町
電話五五九番

鐵道省指定記念
小名濱……湯本間乗合自動車
無料乗車券サービス

佛造花 具花
屋本橋
町川新平 三六一電
佛具
武一具佛神

三井タクシー
平二 電六八五番
乗車券は小名濱馬目自動車店、西野屋自動車店、湯本駅前丸本、矢内自動車店に御座ます。三人様以上はハイヤーをサービス致します。何卒御利用下さい。



小瀧へ!!
◆宿泊料 1.50 2.00 2.50 (御滞在は左記料金にて中食料をふくませます)
◆日歸浴席料 .20
◆自炊料 .50-.80 (入場料・室料 夜具料一切)
◆料理一定食 .80 1.00 1.50 (その他一品料理洋食)
◆湯 効 神経痛、リウマチス、胃腸病、痔疾、婦人病、逆上、中風、肥胖病 (内務省東京衛生試験所検定済)
◆諸設 備 撞球臺、高級ラデオ、大廣間讀書室、近代式浴場、洗面所、水洗式便所、小動物園、タクシー部、御子様運動器具
◆名物 川魚料理(うなぎ、鯉)蜂蜜羊かん
●女中數名入用●
常磐線湯本驛 小瀧鑛泉
御旅館 龍の湯
御自炊 龍の湯
電話 (小名濱) 103番